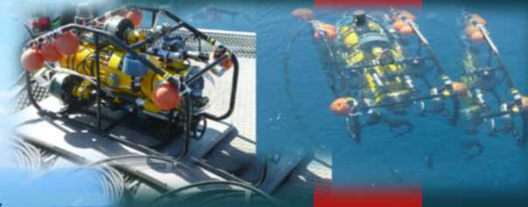


田沢湖湖底調査事業 研究成果報告会

平成30年

2月20日(火) 13時半～

田沢湖クニマス未来館
研修ホール
入場無料



仙北市、秋田大学、高知大学及び大阪市立大学が共同で調査を行った「田沢湖湖底調査事業」の研究成果を広く開示し、田沢湖の再生に資するべく報告会を開催します。事前申し込みは不要です。お気軽にお越しください。

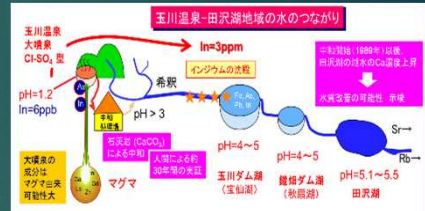
【講演内容】

○「田沢湖の湖水の性質は変えられるのか」

—中和処理以前から現在までの湖水の変化から見えること—

講師：石山大三(秋田大学 国際資源学部 国際資源学科 教授)

田沢湖の湖水の酸性化の原因となった玉川温泉の大噴泉の温泉水の特徴、同温泉水が流入する渋黒川・玉川の河川水の特徴、そして同河川水が流れ込む田沢湖の湖水の変化について中和処理以前から現在までの湖水の変化も含めて紹介します。そして、将来の田沢湖の湖水の化学組成変化の可能性にふれたいと思います。



○「水深423mの湖底に秘められた日本列島の環境変動の歴史」

講師：松岡裕美(高知大学 理工学部 地球環境防災学科 准教授)

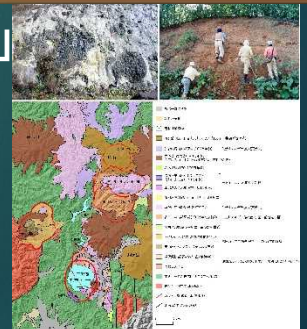
田沢湖は日本で一番深い湖です。これは多くの水を蓄えているというだけでなく、その湖底に静かに過去数万年にわたる環境変化の記録を保持していることも示しています。周囲の森林の移り変わり、十和田や南九州から飛来してきた火山灰、周辺地域を襲った地震など、湖底に秘められた歴史を覗いてみたいと思います。



○「田沢湖の謎を追って—田沢湖カルデラとその噴出物」

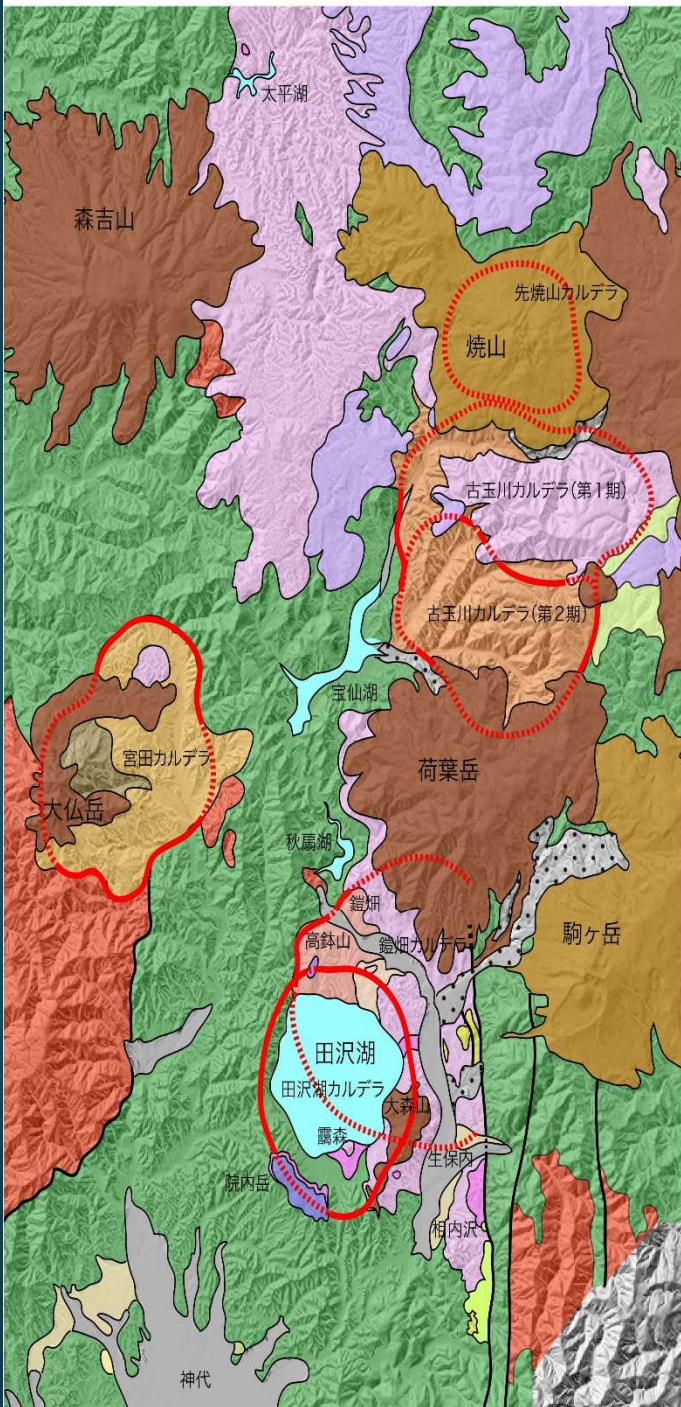
講師：鹿野和彦(国立研究開発法人 産業技術総合研究所)

田沢湖は、その特徴的な地形からカルデラ湖と考えられています。しかし、その証拠となるカルデラ形成時の火山噴出物が特定されたのはごく最近のことです。この講演では、証拠を探し当てるまでのいきさつをまじえつつ、いつ、どのようにしてできたのか、火山噴出物から読み解く田沢湖カルデラ誕生の物語と、田沢湖カルデラがその後たどった歴史を紹介します。



数ある火山噴出物の中から田沢湖起源の火山噴出物を探し当てる調査、その結末は？
※裏面に拡大版あり

主催：仙北市(総務部企画政策課 TEL0187-43-1112)



- 谷底平野堆積物
- 段丘堆積物
- 扇状地堆積物
- 駒ヶ岳・乳頭山・焼山火山(70万年前以降, 中期更新世以降)
- 〓 森牧場溶結凝灰岩(100万年前)] 先焼山カルデラ(前期更新世)
- 大仏岳, 荷葉岳(140万年前), 森吉山火山(110-70万年前)など(前期更新世)
- 八木沢層(150-100万年前)
- 院内岳安山岩(160万年前)] 田沢湖カルデラ(前期更新世)
- 高鉢山玄武岩(170万年前)
- 田沢湖火砕流堆積物(180万年前)
- 相内沢層(190万年前後, 前期更新世)
- 倉沢山溶結凝灰岩(200万年前)] 先焼山カルデラ(前期更新世)
- 古玉川溶結凝灰岩(300万年前以降?)] 古玉川カルデラ(後期鮮新世-前期更新世)
- 関東ノ沢層(後期中新世-後期鮮新世?)
- デイサイト火砕岩(湖成堆積物を伴う)] 宮田カルデラ(後期鮮新世, 500万年前以降)
- 安山岩(巨大ブロック)を挟む火砕岩
- 凝灰質砂岩礫岩など(湖成堆積物)] 鏡畑カルデラ(仮称)(後期中新世末期, 600万年前以降)
- 流紋岩火砕岩
- 中新世-鮮新世未区分堆積岩・火山岩
- 後期白亜紀花崗閃緑岩など
- カルデラ縁(破線は伏在部分)
- 断層(破線は伏在部分)

